

令和 6 年 4 月 16 日現在

機関番号：32601
 研究種目：若手研究
 研究期間：2019～2023
 課題番号：19K13259
 研究課題名（和文）英語俳句に基づくクリエイティブ・ライティングの効果検証 書き手の育成に向けて
 研究課題名（英文）Empirical study of second language creative writing

研究代表者
 飯田 敦史（Atsushi, Iida）
 青山学院大学・文学部・准教授

研究者番号：50622122
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、2つの研究課題を設定し行われた。1つ目は、英語俳句作成活動が、どのように書き手のvoiceを引き出し、それを表現する力を育成できるか。2つ目は、俳句作成によって育成されたvoiceを表現する力が別のジャンルにも転移するか。研究結果から、英語学習者が作成した俳句には様々な感情表現が含まれており、voiceは書き手の実体験を反映する形で表現されていることが明らかになった。また、別ジャンルへの転移に関しては、英語による俳句作成活動は、文章レベルでの複雑性の向上には寄与しないものの、ライティングの流暢さ、語彙多様性、および論文の質を高める効果があることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の新規性は、日本特有の文化で日本人に馴染みのある俳句を英語教育に取り入れた点、また、英語俳句作成によって書き手のvoiceを引き出すことが可能かを検証した点にある。国際的に見ても、英語による俳句作成と総合的な「書く」力の向上との関係性を検証した研究は未だ存在していないことから、本研究の調査結果は、日本国内外の英語教育・教育に大きな貢献をもたらすことが考えられる。また、本研究で実践した英語俳句指導法は、様々な教育環境にも応用でき、今後、日本の中学校・高等学校でも導入することが可能であることを考慮すると、その社会的・学術的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is two-fold: (1) to explore how the task of composing haiku in English can help Japanese EFL writers develop their voices; and (2) to examine the positive effects of composing haiku on second language (L2) writing development. This study revealed that a writer's voice is constructed and expressed in response to his or her own real-life experiences. It also identified literacy transfer effects of composing haiku on argumentative essays: poetry writing allowed the students to promote written fluency, enhance lexical variety, and develop the overall writing quality in essay writing.

研究分野：英語教育学

キーワード：第二言語ライティング クリエイティブ・ライティング 英語俳句 Voice 自己表現力

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

急速に進展するグローバル社会では、英語で自分の意見・考えを伝える機会が増え、特にライティングを通じてのコミュニケーション能力が求められている。しかし、文部科学省が平成 29 年度に全国の中学 3 年生約 6 万人、高校 3 年生約 6 万人を対象に実施した英語力調査によると、「書く力」は、中学 3 年生の 53.2%が CEFR (ヨーロッパ共通言語参照枠) A1 下位レベル、高校 3 年生でも 80%が CEFR A1 レベルに留まるという結果であった。この結果から、日本人英語学習者の「書く力」の育成強化が急務となり、自分の想いや考えを書く力の育成が英語教育で取り組まなければいけない課題であると言える。

2. 研究の目的

本研究の目的は二つある。一つは、英語による俳句を用いたクリエイティブ・ライティング活動がどのように書き手の voice (心の声) を引き出し、それを表現する力を育成するかを検証することである。二つ目は、俳句作成によって育成された「voice を表現する力」が別のジャンルにも転移するかどうかを検証することである。この目的を達成するため、本研究は 3 つの過程で構成した。(1) 学習者が作成した俳句を使って英語俳句コーパスを構築し、書き手が voice を表現する際にどのような言語を選択しているかを分類した。(2) 俳句作成活動を経験した学習者にインタビューを実施し、俳句作成活動を通してどのような新たな学びや気づきがあったのかを調査した。(3) voice を表現する力が別のジャンルにも転移するかどうかを分析し、俳句作成活動の教育効果を検証した。

3. 研究の方法

3.1 研究参加者

本研究の参加者は、研究代表者が担当する必修科目「教養英語 1 年」で実施した。本科目には 29 名の履修者がいたが、2 名の学生から参加辞退の申し出があったため、最終的な参加者は 27 名となった。

3.2 データ収集方法及び分析方法

英語俳句を取り入れたクリエイティブ・ライティング活動の実施とコーパスの構築

研究参加者は、10 週間の授業期間中に、俳句作成についての授業を一定期間受けた後、「私の忘れられない思い出」という題目について自身の心情を表現する俳句を英語で 20 個作成した。これらの英語俳句を収集・電子化し、分析のための英語俳句コーパスを構築した。心情を表現するために研究参加者がどのような語彙を選択したかについて分析した。

英語俳句を経験した学習者へのインタビューの実施

同意書の中でインタビューへの協力を署名した学習者を対象に、半構造化インタビューを実施した。インタビューでは、英語俳句で心情を表現する過程でどのようなことを考えたか、どのような問題に直面し、それをどのように解決したか、どのような新たな学びや気づきがあったかについて自由に話してもらった。

プレ・ライティングテストとポスト・ライティングテストの実施

voice を表現する力が別のジャンルを書く際に転移するかを検証するため、ジャンルとして「論証文」を選び、10 週間の授業前と授業後にライティングテストを実施した。プレ・テストとポスト・テストの間にはどのような変化が見られたか（あるいは見られなかったか）を、流暢性・語彙洗練性・語彙多様性・論証としての説得力に焦点を当て比較した。

4. 研究成果

4.1 Voice を表現する力の別ジャンルへの転移 (Iida, 2019a; 飯田 2022; Iida, in press)

最初に、ジャンル間の転移を調査するために、俳句作成活動前後で実施したプレ・テストとポスト・テストを4つの観点から分析した。その結果、論証文の説得力 (Overall Quality of Writing)、流暢性 (Written Fluency)、語彙多様性 (Lexical Diversity) において統計的に有意差が見られた。その一方で、統語的複雑さ (Lexical Complexity) においては有意差は見られなかった。このことから、英語による俳句作成活動は、複雑な文章を書く力の上達には寄与しないものの、より多くの文章を産出できるようになり、またその文章の中で様々な語彙を使用できるようになることで、論証文の質を高める効果があることがわかった。

4.2 書き手が voice を表現する際の言語選択 (Iida, 2019b, 2021; Iida, 2024; Iida, in press)

次に、日本人英語学習者が俳句の中で、どのようにvoiceを表現するのか、その言語選択のパターンを調査した。研究参加者が作成した270個の俳句を用いて英語俳句コーパスを作成し、その言語学的特徴を分析した。結果として、英語俳句は1句につき平均13 (4-5-4) wordsで構成され、使用されている単語の約90%が、英語母語話者が日常生活で使用する上位2,000語に一致していた。人称代名詞においては、1人称が最も頻繁に使われており、2人称や3人称の使用は非常に限られていた。感情表現に関しては大きく6パターンに分類され、学習者はvoiceを表現する際、「体の部位」「色」「感情」「気温」「身体的反応」「知覚過程」を表す単語を比較的多く使用することがわかった。

4.3 俳句作成活動を通しての新たな学びや気づき (Iida, 2023)

最後に、プレ・テストとポスト・テスト間でスコアに大きな伸びが見られた3名の学生に焦点を当て、インタビュー調査を実施した。収集したインタビューデータを書き起こし、主題分析 (theme analysis) を行うことで、どのような学びや気づきがあったのかを検証した。インタビューデータの分析結果から、主に以下の3点が明らかになった。(1) 日本人英語学習者は俳句作成活動によって、読み手を意識できるようになり、英語による自己表現方法にも注意を払えるようになる。(2) ライティング活動の際、より簡潔に、明瞭で、説得力のある文章を産出するように心掛けるようになる。(3) 俳句作成活動を通して、英語ライティングのレパトリーが増え、書くことに対して自信が持てるようになる。

上記の3つの調査結果を踏まえ、本研究では、以下のように結論づける。(1) 日本人英語学習者が作成した俳句には様々な感情表現が含まれており、voice は書き手の実体験を反映する形で表現される。(2) 英語で俳句を作成することで養った「voice を表現する力」は論証文の中にも見られ、クリエイティブ・ライティング活動が、英作文の流暢さ、語彙の多様性、および論証文の

質を高める効果がある。その一方で、10 週間の俳句作成活動を経験したにもかかわらず、ポスト・テストのスコアに伸びが見られなかった研究参加者が数名いることも明らかになった。今後は、こうした学習者に着目し、「書く力」の上達につながらなかった要因を継続的に調査していきたい。

引用文献

1. Iida, A. (in press). *Haiku across borders: Evocative voice in second language poetry writing*. Routledge.
2. Iida, A. (2024). *The patterns of voice construction in second language haiku poetry writing*. The 58th RELC International Conference. Singapore.
3. Iida, A. (2023). *What do EFL students learn from second language poetry writing?* The 21st Asia TEFL International Conference, Daejeon, South Korea.
4. 飯田敦史 (2022). 俳句を用いての英語ライティング指導：書き手の自己表現力を目指して. 第 55 回青山学院大学英文学会大会.
5. Iida, A. (2021). *Textual and linguistic features of second language poetry writing: A case of Japanese EFL students*. The 19th Asia TEFL International Conference, New Delhi, India.
6. Iida, A. (2019a). *Second language literacy development through poetry writing: An intervention study*. Symposium on Second Language Writing at Arizona State University, AZ, USA.
7. Iida, A. (2019b) Haiku and spoken language: Corpus-driven analyses of linguistic features in English-language haiku writing. In C. Jones (Ed.), *Literature spoken language and speaking skills* (pp. 96-117). Cambridge University Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Atsushi Iida	4. 巻 n/a
2. 論文標題 A poetic inquiry into a Japanese pre-service teacher's English language learning trajectory: Pedagogical and methodological implications for teacher education	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Language Teaching Research	6. 最初と最後の頁 n/a
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/13621688221084059	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Atsushi Iida	4. 巻 n/a
2. 論文標題 Review of Nicholes (2022): Creative writing across the curriculum: Meaningful literacy for college writers across disciplines, languages, and identities	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Scientific Study of Literature	6. 最初と最後の頁 n/a
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1075/ssol.00018.iid	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Atsushi Iida & Bee Chamcharatsri	4. 巻 16
2. 論文標題 Emotions in second language poetry writing: A poetic inquiry into Japanese EFL students' language learning experiences	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Innovation in Language Learning and Teaching	6. 最初と最後の頁 53-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/17501229.2020.1856114	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Atsushi Iida	4. 巻 n/a
2. 論文標題 A poetic inquiry into a Japanese pre-service teacher's English language learning trajectory: Pedagogical and methodological implications for teacher education	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Language Teaching Research.	6. 最初と最後の頁 n/a
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/13621688221084059	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iida Atsushi	4. 巻 27
2. 論文標題 “ I Feel Like I Can ' t Avoid Dying ” : A Poetic Representation of a Survivor ' s Traumatic Experience in the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Qualitative Inquiry	6. 最初と最後の頁 45 ~ 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1077800419897695	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iida Atsushi, Chamcharatsri Bee	4. 巻 -
2. 論文標題 Emotions in second language poetry writing: a poetic inquiry into Japanese EFL students ' language learning experiences	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Innovation in Language Learning and Teaching	6. 最初と最後の頁 1 ~ 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17501229.2020.1856114	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 Atsushi Iida
2. 発表標題 Expressing love in a foreign language: A poetic inquiry.
3. 学会等名 Viet TESOL International Convention 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Bee Chamcharatsri, B. & Atsushi Iida
2. 発表標題 The use of creative writing in multilingual environments.
3. 学会等名 TESOL International Association Second Language Writing (SLW) Interest Section (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯田敦史
2. 発表標題 俳句を用いての英語ライティング指導 -書き手の自己表現力を目指して-
3. 学会等名 第55回青山学院大学英文学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Atsushi lida
2. 発表標題 Textual and Linguistic Features of Second Language Poetry Writing: A Case of Japanese EFL Students
3. 学会等名 The 19th Asia TEFL International Conference, New Delhi, India (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsushi lida
2. 発表標題 Exploring Japanese Students' Experiences of COVID-19 Pandemic Through Second Language Poetry Writing
3. 学会等名 Viet TESOL International Convention 2021, Vinh, Vietnam. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsushi lida
2. 発表標題 Assessing Second Language Poetry Writing: Linking Assessment, Learning, and Language Use.
3. 学会等名 The 67th TEFLIN International Conference and The 9th the International Conference on English Language and Teaching (ICoELT), Padang, Indonesia. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsushi Iida
2. 発表標題 Humanizing the EFL Classroom Through Poetry Writing.
3. 学会等名 The SUT International Virtual Conference on Science and Technology 2020 (Thailand) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Atsushi Iida
2. 発表標題 Creative writing in the era of COVID-19 pandemic.
3. 学会等名 The Tokyo JALT & JALT LiLT SIG Collaborative Event (JAPAN) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Atsushi Iida
2. 発表標題 Poetic-narrative autoethnography: Exploring traumatic experiences in the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 Asian Qualitative Research Association (AQRA) Virtual Conference (Philippines) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Atsushi Iida
2. 発表標題 Japanese University Students' Perceptions on Second Language Poetry Writing
3. 学会等名 The 40th Thai TESOL and PAC International Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Atsushi Iida
2. 発表標題 Second Language Literacy Development through Poetry Writing: An Intervention Study
3. 学会等名 The 18th Symposium on Second Language Writing (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsushi Iida
2. 発表標題 Expressing Love in Second Language Poetry Writing: A Case of Japanese EFL Writers
3. 学会等名 Literature in Language Learning and Teaching Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯田敦史
2. 発表標題 ヴォイスとアイデンティティから見る第二言語習得研究 -新しいテキスト分析に向けて-
3. 学会等名 日本語教育学会(九州沖縄支部)(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Bee Chamcharatsri & Atsushi Iida	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 212
3. 書名 International Perspectives on Creative Writing in Second Language Education: Supporting Language Learners' Proficiency, Identity, and Creative Expression	

1. 著者名 Christian Jones (Ed)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 262
3. 書名 Literature, Spoken Language and Speaking Skills in Second Language Learning	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	University of New Mexico			